

臨地実習（感染看護学）

[実習] 通年 選択 180時間 4単位

【担当者名】 塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
山田 拓[yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

感染症看護専門看護師として求められる、診断・治療における臨床推論の知識を中心にさまざまな臨床の現場で学習する

【学修目標】

- 1) 診断・治療における臨床推論について、理解できる
- 2) 呼吸器内科入院患者を対象に、我が国の死因で多い肺炎患者の治療から診断、検査、適切な抗菌薬使用について実践的に学ぶ
- 3) 肺結核入院患者の診断、検査、治療に一連のプロセスを指導医のスーパーバイズの下で検討する
- 4) 肺結核入院患者において、多職種連携について、特に保健所との連携について学習する
- 5) 一般病院におけるAntimicrobial Stewardship Team (AST)の活動についての実際を見学し、各職種の役割を理解し、そのうえで、高度実践看護師の役割を考察する
- 6) サービス付高齢者施設を併設している地域のクリニックにおいて、地域における感染症予防・管理について実践的に学習する
- 7) 患者への医療サービスの実践を通して、地域での多職種連携の能力を養う
- 8) 身体的・心理社会的に複雑な課題をもつ易感染患者及び感染症を持つ患者に対して、包括的なアセスメントがどのように行われ、生活の質を低下させないような治療選択がどのように行われているのか検討することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	臨地実習	1) 高度実践看護師としての自身の学習課題を明確にし、実習目標を到達できるように、実習計画を立案する。 2) 実習指導者及び教員の助言を得ながら、実習計画に基づき、実習する 3) 実習内容及び学びについて、日々実習記録に整理し、実習指導者から助言を得る 4) 実習課題の達成を図るために、実習の中間において、実習指導者、教員、学生でカンファレンスを設ける。カンファレンスに当たっては、学生は実習課題に関する資料を作成する 5) 実習終了後には、実習課題の到達度について、課題レポートを作成する 【実習期間】 おおむね4週間 但し、集中実習か分散実習かについては、学生の実習課題や学習状況により相談、決定する	塚本 山田
	実習場所	北海道医療センター、よつば家庭医療クリニック	

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表（40%）、報告書・レポート及びプレゼンテーション（60%）を総合して、評価

【学修の準備】

必要な文献・資料等に目を通しておくこと